

指導時期	単元	教材名	配当 時数	教材目標	学習活動の流れ	学習指導要領 との対応 (*)は本教科書独 自の言語活動例	評価規準例	評価の観点の例
4 月	言葉と出会う	ふしぎ／声を出そう 【話す聞く】感想を伝え合おう 【書く】記録をしよう	3 (内、話聞 1, 書 1)	(●『ふしぎ』を読むことをとおして、小学校での国語学習を振り返りながら、これからの中学校での学習に向けて、関心をもつ。)	1 どのようなことを「ふしぎ」と捉えているか、考える。読み取ったことを踏まえて、朗読する。 2 自分の体験に照らし合わせて、自分が「ふしぎ」と思うことをグループ内で発表し、話し合う。 3 他のグループの「ふしぎ」を聞き、メモを取る。金子みすゞの『ふしぎ』にならない自分流の「ふしぎ」を書く。	C (1)ア C (1)オ A (1)オ B (1)ア 伝国(1)イ(イ) 言語活動例 C (2)ア A (2)イ B (2)イ	◇国語への関心・意欲・態度 ・小学校での国語学習を振り返りながら、中学校での学習について、関心をもとうとしている。	◇国語への関心・意欲・態度 【Bの判定基準】『ふしぎ』を読むことをとおして、小学校での各領域の学習内容を振り返りながら、これから始まる中学校での学習について、関心をもとうとしている。 【Aの具体的な姿の例】『ふしぎ』を読むことをとおして、小学校での各領域の学習内容を振り返りながら、これから始まる中学校での学習について、見通しや関心をもとうとしている。 【Cへの支援】金子みすゞの作品をはじめ、小学校で読んできた作品を思い出させたり、P16～18にある「小学校で学んだこと」を示しながら、小学校での学習活動についてグループで話し合わせたりする。 ◇言語についての知識・理解・技能 【Bの判定基準】「あたりまえ」を「ふしぎ」と捉える作者のものの見方、考え方を理解し、辞書的な意味と文脈上の言葉の意味の違いを理解している。 【Aの具体的な姿の例】「あたりまえ」を「ふしぎ」と捉える作者のものの見方、考え方を理解し、「ふしぎ」と捉える作者の感性について自分の考えをもっている。 【Cへの支援】辞書的な意味と、作者があえて「ふしぎでたまらない」と繰り返し述べることの意味の両面から考えさせる。また「ふしぎでたまらない」と思いを強調している表現にも注目させる。単にふしぎなのではない、誰も注目しないようなあたりまえのように考えられていることに対して、自分ではうまく言葉にして説明することのできないような思いがこめられていることに気づかせる。
		音を追いかけて	4	●登場人物の心情や行動の変化に着目し、作品の理解を深める。	1 本文を音読し、あらすじを捉える。 2 登場人物の心情に着目し、行動の変化の理由について考える。 3 「自信」という	C (1)ア C (1)ウ 伝国(1)イ(ウ) 言語活動例 C (2)ア	◇国語への関心・意欲・態度 ・作品を音読しながら、登場人物の場面ごとの心情を捉えようとしている。 ◇読む能力 ・「自信」という語句の意味を、作品の文脈において的確に捉え、理解している。	◇国語への関心・意欲・態度 【Bの判定基準】作品を音読しながら、登場人物の場面ごとの心情を捉えようとしている。 【Aの具体的な姿の例】登場人物の場面ごとの心情を表現した朗読をしようとしている。 【Cへの支援】登場人物の心情が描写されているところに注意して、作品を音読させる。 ◇読む能力

る			<p>言葉の意味について考える。</p> <p>4 未来の心情を表していると思われる箇所を本文の中から探し、その効果について話し合う。</p>		<p>・主人公の心情を表す表現に注意して読み、主人公の行動の変化を理解している。</p> <p>◇言語についての知識・理解・技能</p> <p>・中学生の未来を表す語句と小学生の頃の未来を表す語句の違いに気づき、語彙について関心を深めている。</p>	<p>【Bの判定基準】この作品における「自信」という語句の意味を、理解している。</p> <p>主人公の心情を表す表現を根拠として、主人公の行動の変化について説明している。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】「自信」という語句の意味を、この作品のキーワードとして説明している。</p> <p>主人公の心情を表す表現を理解し、主人公の行動の変化と言葉の関わりについて説明するとともに、そうした言葉のはたらきについて自分の考えをまとめている。</p> <p>【Cへの支援】「自信」をもっている場面、「自信」がもてないでいる場面を取り上げて読み取らせ、「自信」の意味を考えさせる。</p> <p>主人公の心情を表す表現が、主人公の行動にどのように結びついているか、指摘させることで、その変化についてまとめさせる。</p> <p>◇言語についての知識・理解・技能</p> <p>【Bの判定基準】中学生の未来を表す語句と小学生の頃の未来を表す語句を比べ、違いに気づき、語彙について関心を深めている。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】中学生の未来を表す語句と小学生の頃の未来を表す語句の違いに気づき、語彙を増やしていくことの意義について理解している。</p> <p>【Cへの支援】中学生の未来を表す語句と小学生の頃の未来を表す語句を抜き出し、違いを指摘させる。</p>	
	【書く】 体験したことを文章にする	5	<p>●自分の体験を振り返り、随筆を書く。</p> <p>●題名を決め、時間の順序にそって、文章を書く。</p>	<p>1 自分の体験をもとに、マッピングを行い、随筆の題名を決める。</p> <p>2 できごとや考えたことを、付箋やカードなどに書き出し、時間の順序にそって並べる。</p> <p>3 自分の感想や考えが伝わるように、四百字程度で随筆を書く。</p> <p>4 書いた文章を推敲する。</p>	<p>B(1)ア B(1)イ 伝国(1)イ(イ) 言語活動例 (*)</p>	<p>◇国語への関心・意欲・態度</p> <p>・身のまわりのできごとにそって、自分の感想や考えを随筆にまとめようとしている。</p> <p>◇書く能力</p> <p>・テーマをもとに、自分の体験を振り返って材料を集め、「始め—中—終わり」という構成で時間の順序にそって文章を書いている。</p> <p>◇言語についての知識・理解・技能</p> <p>・わかりやすい表現を心がけ、適切な語句を選択している。</p>	<p>◇国語への関心・意欲・態度</p> <p>【Bの判定基準】身のまわりのできごとにそって、自分の感想や考えを随筆にまとめようとしている。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】体験したことや、自分の感想や考えを、「読み手」に効果的に伝えることを意識しながら、文章を書こうとしている。</p> <p>【Cへの支援】個別に対話をして、体験を振り返らせる。</p> <p>◇書く能力</p> <p>【Bの判定基準】テーマをもとに、自分の体験を振り返って材料を集め、「始め—中—終わり」という構成で時間の順序にそって文章を書いている。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】集めた材料を関係づけたり比較したりして書く事柄を選び、時間の順序にそうだけでなく、「できごと(=事実)」と「感想や考えたこと(=意見)」を並べる順番を入れかえて比較するなどして、伝えたいことがより効果的に伝わる構成を選択している。</p> <p>【Cへの支援】個別に対話をして、マッピングをさせる。決まったテーマをもとに、付箋にできごとをメモさせ、時間の順序にそって並べさせる。</p>

				5 書いた文章を友達と読み合い、構成について話し合う。			◇言語についての知識・理解・技能 [Bの判定基準] わかりやすい表現を心がけ、適切な語句を選択している。 [Aの具体的な姿の例] 複数の語句や表現を比較するなどして、伝えたいことがより効果的に伝わる言葉や表現を選択している。 [Cへの支援] 教科書P29の「活動のポイント」に示された、時間の順序を表す語句や表現、文末表現などを参考にして書くように指示する。
5月	【話す聞く】 お気に入りの一品を紹介する	1	(●自分の思いを表現するために、実物や写真などを用意する。) (●ペアでスピーチを聞き合い、思いを伝え合う。)	1 「お気に入りの一品」を決め、実物や写真などを用意して、話す内容と項目を考え、ペアでスピーチを話し合う。	A(1)ア A(1)イ 伝国(1)イ(イ) 言語活動例 A(2)ア	◇国語への関心・意欲・態度 ・「お気に入りの一品」をわかりやすく説明しようとしている。 ◇話す・聞く能力 ・課題について、話す内容や項目を踏まえて、自分の考えを表現している。 ◇言語についての知識・理解・技能 ・話し言葉と書き言葉の区別を意識して、聞き手にわかりやすい語句を選択している。	◇国語への関心・意欲・態度 [Bの判定基準] 「お気に入りの一品」をわかりやすく説明しようとしている。 [Aの具体的な姿の例] 品物の特徴や選んだ理由を明らかにしたり、見せるタイミングを工夫したりしながら、「お気に入りの一品」を説明しようとしている。 [Cへの支援] 指導者の見本を示しながら、内容や項目のポイントを説明する。 ◇話す・聞く能力 [Bの判定基準] 課題について、話す内容や項目を踏まえて、自分の考えを表現している。 [Aの具体的な姿の例] 課題について、選んだ根拠となるエピソードをあげたり、話し方を工夫したりしながら、自分の考えを表現している。 [Cへの支援] 「お気に入りの一品」について、5W1Hの観点からエピソードを想起させる。 ◇言語についての知識・理解・技能 [Bの判定基準] 話し言葉と書き言葉の区別を意識して、聞き手にわかりやすい語句を選択している。 [Aの具体的な姿の例] 話す速度や音量、言葉の調子や間のとり方などがもつ効果を意識して、聞き手にわかりやすい語句を選択している。 [Cへの支援] 指導者の見本を示しながら、話し方のポイントを説明する。
	二 関係 を見 いだ す 笑顔という魔法	5 (内、話聞1)	●語句の意味や接続表現・文末表現をおさえ、筆者のものの見方や考え方を捉える。 ●「題名」と本文の内容、「問い」と「答え」の関係に着目して文章を読む。	1 全文を通読し、実験結果のどのような点が「意外」だったのか、説明する。 2 「問い」と「答え」の関係をつまみ、文章の要旨をつまみ取る。	C(1)ア C(1)イ 伝国(1)イ(ウ) 言語活動例 C(2)イ	◇国語への関心・意欲・態度 ・実験の内容や結果を参考に、文章の内容をつまみ取るようとしている。 ◇読む能力 ・表現や語句から内容をおさえ、事実と意見を明確に分け、筆者の考えを的確につまみ取っている。 ・文章の展開に着目して文章を読んでいる。	◇国語への関心・意欲・態度 [Bの判定基準] 実験結果のどのような点が「意外」だったのか説明したり、「笑顔」がどのような点で「魔法」だと言っているのか本文や自分の経験から材料を集めて話したりしようとしている。 [Aの具体的な姿の例] 「笑顔」がどのような点で「魔法」だと言っているのか筆者の意図を読み取りつつ、本文や自分の経験から材料を集め、相手にわかりやすく説明しようとしている。 [Cへの支援] 導入段階で笑顔にはどんな魔法があるのか予想させ、実験結果や友達の意見との共通点や相違点を整理し、筆者の考えと自分の予想と

			<p>3 接続表現と文末表現に着目してそれぞれの効果について話し合う。</p> <p>4 似たような意味の語句の使い分けを確かめ、筆者は「笑顔」がどのような点で「魔法」だと言っているのか、話し合う。</p>		<p>◇言語についての知識・理解・技能</p> <p>・「効果・効力」「認識・判断」「説明・解釈」を使い分けている。</p>	<p>を比較しながら読ませ、教材への関心・意欲を持続させる。</p> <p>◇読む能力</p> <p>【Bの判定基準】 接続表現や文末表現をおさえながら事実と意見を読み分け、筆者の論理の展開の仕方や考え方を捉えている。</p> <p>「題名」と本文の内容、「問い」と「答え」などの文章の展開に着目して、説明の文章を読んでいる。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】 接続表現や文末表現をおさえ、「問い」と「答え」だけでなく筆者が文章をまとめ直しているところなどに気づきながら、筆者の論理の展開の仕方や考え方を捉えている。</p> <p>【Cへの支援】 接続表現や文末表現に着目させながら「問い」と「答え」を見つけさせることにより、事実と意見の読み分けをさせる。</p>
			<p>5 「笑顔」や日常生活の中で思い出されることの「効力」について話し合う。</p>	A(1)ア	<p>◇話す・聞く能力</p> <p>・本文や自分の経験から材料を集め、相手にわかりやすく説明している。</p>	<p>言語についての知識・理解・技能</p> <p>【Bの判定基準】 「効果・効力」「認識・判断」「説明・解釈」を文脈の中で的確に捉え、説明している。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】 「効果・効力」「認識・判断」「説明・解釈」の文脈の中での意味を的確に捉え、筆者のものの見方や考え方にふれながら、その違いについて説明している。</p> <p>【Cへの支援】 「効果」「効力」「認識」「判断」「説明」「解釈」のそれぞれについて辞書で調べ、それをもとに文脈の中の意味を対比して捉えさせ、説明させる。</p>
			<p>1 日常生活の中から話題を決め、報告するためのフリップを用意する。</p> <p>2 話す側、聞く側の役割を確認し、話し手は、相手の</p>	<p>A(1)ア</p> <p>A(1)イ</p> <p>A(1)ウ</p> <p>伝国(1)イ(イ)</p> <p>言語活動例</p> <p>A(2)ア</p>	<p>◇国語への関心・意欲・態度</p> <p>・「通学路安全マップ」を作り、フリップを用いてわかりやすく説明しようとしている。</p> <p>◇話す・聞く能力</p> <p>・「通学路安全マップ」などの話題について、事実と意見を区別して説明</p>	<p>◇国語への関心・意欲・態度</p> <p>【Bの判定基準】 「通学路安全マップ」を作り、フリップを用いてわかりやすく説明しようとしている。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】 自分が見たことだけではなく、他者へのインタビューなどをもとに、「通学路安全マップ」に書かれている事実を明確に説明して、自分の考えをもとうとしている。</p> <p>【Cへの支援】 写真などを用いてフリップに事実を書きこませ、それに対す</p>
【話す聞く】	4	<p>● 話の構成を考え、フリップを用いて報告する。</p> <p>● 文末表現に注意して、事実と意見を区別して話す。</p>				

				<p>反応を見ながら、事実と意見を区別して話す。</p> <p>3 前時の学習を振り返り、再度、スピーチを行う。</p> <p>4 スピーチの感想や、わかりやすい伝え方について話し合う。</p>		<p>している。</p> <p>◇言語についての知識・理解・技能</p> <p>・話し言葉と書き言葉の区別を意識して、聞き手にわかりやすい語句を選択している。</p>	<p>自分の意見をもたせる。</p> <p>◇話す・聞く能力</p> <p>【Bの判定基準】「通学路安全マップ」などの話題について、事実と意見を区別して説明している。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】相手の反応を見ながら、自分の考えを効果的に伝えようと話し方を工夫している。</p> <p>【Cへの支援】事実と意見の違いについて説明し、文末表現の方法を伝えることで、両者を区別しながら話をさせる。</p> <p>◇言語についての知識・理解・技能</p> <p>【Bの判定基準】話し言葉と書き言葉の区別を意識して、聞き手にわかりやすい語句を選択している。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】相手の反応を見ながら、自分の考えを効果的に伝えられる語句を選択している。</p> <p>【Cへの支援】発表用に書いた原稿をもとに、聞き手を想定しながら自分が話しやすい語句に変換させる。</p>
6月	<p>言葉の小窓1 日本語の音声</p> <p>言葉(解説)1 日本語の音声</p>	2	●日本語のもつ音の特徴を理解する。	<p>1 「子音」と「母音」の違いや、音の特徴について理解する。</p> <p>2 「アクセント」「イントネーション」を変化させることによって、どのように意味が変わるのか、またそれによってコミュニケーションにどのような影響が出るのか、考える。</p>	伝国(1)イ(ア)	<p>◇国語への関心・意欲・態度</p> <p>・日本語の音の特徴を理解しようとしている。</p> <p>◇言語についての知識・理解・技能</p> <p>・音声のはたらきや仕組みについて関心をもち、日常生活の中での影響について考えている。</p>	<p>◇国語への関心・意欲・態度</p> <p>【Bの判定基準】日本語の音声について、はたらきや仕組みについて関心をもちようとしている。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】日本語の音声の特徴や仕組みを理解して、例示されたもの以外の表現にも関心をもち、確かめている。</p> <p>【Cへの支援】自分が日常から使っている言葉の中にアクセントの違いなどで意味が異なるものがあることに気づかせる。</p> <p>◇言語についての知識・理解・技能</p> <p>【Bの判定基準】日本語の音声について、はたらきや仕組みを理解し関心をもち、日常生活の中での影響について考えている。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】日本語の音声の仕組みを理解して、自分が使う言葉についても分析している。</p> <p>【Cへの支援】関東と関西の方言の違いのような、大きく異なるアクセントの違いなどを感じさせる。</p>
	漢字の広場1 漢字の部首	1	●漢字の部首についての理解を深める。	1 「部首」という概念を理解し、漢字の「部首」を確認したり、「形」から「義」や「音」を類推したりする。	伝国(1)ウ(ア) 伝国(1)ウ(イ)	<p>◇国語への関心・意欲・態度</p> <p>・漢字の構成の仕方に興味をもち、それについての知識を深めようとしている。</p> <p>◇言語についての知識・理解・技能</p> <p>・代表的な部首の種類やそのはたらきについて理解している。</p>	<p>◇国語への関心・意欲・態度</p> <p>【Bの判定基準】漢字を構成する部分の共通性に注目して意味や音の共通性について考えようとしている。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】漢和辞典の部首索引を利用して多くの漢字を調べようとしている。</p> <p>【Cへの支援】常用漢字ばかりではなく、魚偏の和製漢字(国字)を例に使うことで関心や興味を喚起させる。</p>

							<p>◇言語についての知識・理解・技能</p> <p>[Bの判定基準] 小学校学習漢字を部首によって分類している。</p> <p>[Aの具体的な姿の例] 部首索引を利用して漢和辞典で新出漢字を調べている。</p> <p>[Cへの支援] 木偏や糸偏などの、目にする機会の多い部首の漢字を示し、それらの共通点について気づくことができるように促す。</p>
	漢字の練習 1	—	—	—	伝国(1)ウ(ア) 伝国(1)ウ(イ)	—	—
三 世 界 を ひ ら く	ベンチ	4	●本や文章から必要な情報を集めるための方法を身につける。	<p>1 作品を読み、「ベンチ」の表す状況を捉えて、自分なりの課題をもつ。</p> <p>2・3 「みちしるべ」の説明にそって、情報の集め方を理解する。</p> <p>4 効果的な表現を考えながら、作品のポップや帯を作成する。</p>	C(1)カ 伝国(1)イ(ウ) 言語活動例 C(2)ウ	<p>◇国語への関心・意欲・態度</p> <p>・読書をとおして、人権や平和について考えていこうとしている。</p> <p>◇読む能力</p> <p>・読書をとおして、必要な情報を集めるための方法を身につけている。</p> <p>◇言語についての知識・理解・技能</p> <p>・自分の考えを表す短い言葉を作品から選び出している。</p>	<p>◇国語への関心・意欲・態度</p> <p>[Bの判定基準] 『ベンチ』を読むことをとおして、人権や平和について考えていこうとしている。</p> <p>[Aの具体的な姿の例] 『ベンチ』をもとに人権や平和について、他のさまざまな本を読んでみようとしている。</p> <p>[Cへの支援] 『ベンチ』に描かれた状況が、現在の私たちとどのように違うのかを比較させる。</p> <p>◇読む能力</p> <p>[Bの判定基準] 本や文章から、必要な情報を集めるための方法を身につけている。</p> <p>[Aの具体的な姿の例] 必要な情報を集めるために、出典や原典などを探り、用語について他の文献を参考にするなどの方法をとっている。</p> <p>[Cへの支援] 『ベンチ』が収められている本について、どのような構成で作られているのかについて再度考えるようにさせる。</p> <p>◇言語についての知識・理解・技能</p> <p>[Bの判定基準] 本を紹介するために正確な引用をしている。</p> <p>[Aの具体的な姿の例] 本の魅力を紹介するために効果的な箇所を引用している。</p> <p>[Cへの支援] 他の作品を参考にさせながら、印象に残った箇所について考えさせる。</p>
	写真と言葉が生み出す世界	4 (内、書1)	●写真と文章の関係を考え、読み手に対する効果を考える。	<p>1 詩と写真の組み合わせから、最も合っていると感じるものを選び、その理由について説明する。</p> <p>2 写真と文章との関係について話し</p>	C(1)カ 伝国(1)イ(イ) 言語活動例 C(2)ウ	<p>◇国語への関心・意欲・態度</p> <p>・写真と文章の関係に関心をもち、その効果の違いを考えようとしている。</p> <p>◇読む能力</p> <p>・メディアリテラシーについて理解し、写真と言葉の組み合わせから情報の違いを読み取っている。</p>	<p>◇国語への関心・意欲・態度</p> <p>[Bの判定基準] 写真と文章の関係に関心をもち、読み手に対する効果の違いを考えようとしている。</p> <p>[Aの具体的な姿の例] 写真の特性、文章の特性の違いに関心をもち、その組み合わせの効果が目的によって違うことを理解し、目的に応じた最も効果的な組み合わせについて、自分の考えをまとめようとしている。</p> <p>[Cへの支援] 文章のみ、写真のみでは、どのように印象が変わるのか、それぞれの写真には何が写っていて、それからは何を感じるのかを体験させ、日</p>

				<p>合い、その効果の違いについて話し合う。</p> <p>3 メディアリテラシーについて理解し、身近なメディアについて話し合う。</p>		<p>◇言語についての知識・理解・技能</p> <p>・文体にそった語句や表現を選択している。</p>	<p>常生活には、それら写真と文章の組み合わせの工夫であふれていることを実感させる。</p> <p>◇読心能力</p> <p>【Bの判定基準】メディアリテラシーについて理解し、異なる表現メディアの組み合わせから情報の違いを読み取っている。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】メディアとは、情報の再構成が行われるものであることを知り、写真と言葉の組み合わせという再構成のされ方から、情報の違いを読み取っている。</p> <p>【Cへの支援】写真も言葉も多義性をもつことを実感させる。例えば、「ボタン」という言葉から連想されるものが人によって違うこと、写真を見て感じることも人によって違うことを知ることが大切である。そのうえで、写真に言葉をつけると写真が違って見えたり、伝えたいことを効果的に伝えるための写真と言葉の組み合わせがあたりすることを自ら考えさせる。</p> <p>◇言語についての知識・理解・技能</p> <p>【Bの判定基準】文体にそった語句や表現を選択し、文章を完成させている。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】写真と文章との組み合わせにおいて、状況に応じた語句や表現を選択し、文章を完成させている。</p> <p>【Cへの支援】ジャンルによって文体が違うことを理解するところから始まるので、例文を読ませながら、学習者の経験・知識を呼び起こす。</p>	
			4 一枚の写真から生まれるさまざまな文章を創作する。	B (1)ウ	◇書く能力	<p>・指定された課題にそって、さまざまな種類の文章を書いている。</p>	◇書く能力	<p>【Bの判定基準】課題にそって文体を考え、さまざまな種類の文章を書いている。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】写真が提示する状況を理解し、指定された文体(ジャンル)にそった文章を書き、写真と文章の組み合わせが効果的な表現を生み出している。</p> <p>【Cへの支援】写真に写し出されているものを書き出させたり、例文を使いながら、自分の言葉に置きかえさせたりする。</p>
7月	【書く】 芸術作品の鑑賞文を書く	4	<p>●芸術作品から受けた印象を、鑑賞文にまとめる。</p> <p>●根拠を明確にして、文章を書く。</p>	<p>1 全文を通読し、鑑賞文について知る。美術の教科書を用いて、鑑賞の練習をする。教科書P72の作品から一つ選ぶ。</p> <p>2 芸術作品を鑑賞</p>	<p>B (1)ウ 伝国(1)イ(ウ) 言語活動例 B (2)ア</p>	<p>◇国語への関心・意欲・態度</p> <p>・芸術作品について、鑑賞したことを文章にまとめようとしている。</p> <p>◇書く能力</p> <p>・伝えたい事柄について、根拠を明確にし、文章を書いている。</p> <p>◇言語についての知識・理解・技能</p> <p>・鑑賞の観点となる語句に注意して、</p>	<p>◇国語への関心・意欲・態度</p> <p>【Bの判定基準】芸術作品について、鑑賞したことを文章にまとめようとしている。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】積極的に作品を選び、観点を明確にして鑑賞したことを根拠として、意欲的に文章にまとめている。</p> <p>【Cへの支援】印象に残った芸術作品について感じたことを箇条書きさせる。</p> <p>◇書く能力</p>	

				<p>する際の観点を確認し、前時で選んだ作品を鑑賞する。</p> <p>3 丁寧に、詳しく書けそうな観点をいくつか絞り、鑑賞文を書く。</p> <p>4 書いた文章を読み合い、根拠のあげ方について話し合う。自己評価をする。</p>		活動の中で生かしている。	<p>【Bの判定基準】 伝えたい事柄について、根拠を明確にし、文章を書いている。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】 伝えたい事柄について、鑑賞の観点をいくつか提示し、観点をもとに感じたことを根拠として項目立てて文章を書いている。</p> <p>【Cへの支援】 芸術作品について感じたことを書き出させ、観点ごとに付箋などを用いて分類させる。教科書P71の「鑑賞文の例」を参考にして文章化させる。</p> <p>◇言語についての知識・理解・技能</p> <p>【Bの判定基準】 鑑賞の観点となる語句に注意して、活動の中で生かしている。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】 選んだ作品について、多くの観点から作品を鑑賞し、鑑賞の観点となる語句や用語に注意して、文章をまとめる際に活用している。</p> <p>【Cへの支援】 複数の観点を提示して、感じたことや伝えたいことがどのような言葉で表現できるか考えさせる。</p>	
	文法の小窓1 言葉の単位	2	●文章・段落・文・文節・単語という単位について理解する。	<p>1 言葉がさまざまなまとまりに分かれることを理解する。</p> <p>2 さまざまな文例をもとに、文や文節、単語にくぎる。</p>	伝国(1)イ(エ)	<p>◇国語への関心・意欲・態度</p> <p>・言葉の単位について関心をもち、「確かめよう」に取り組もうとしている。</p> <p>◇言語についての知識・理解・技能</p> <p>・言葉が、文章・段落・文・文節・単語などの単位で分けられることを理解している。</p>	<p>◇国語への関心・意欲・態度</p> <p>【Bの判定基準】 「文法の小窓」や解説をとおして言葉の単位について関心をもち、「確かめよう」に取り組もうとしている。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】 教科書の用例を参考にしながら、日常生活の言葉を見直している。</p> <p>【Cへの支援】 「ハルとアキの会話」「確かめよう」に、再度、取り組ませ、文法を学習することの意味について考えるよう促す。</p> <p>◇言語についての知識・理解・技能</p> <p>【Bの判定基準】 言葉が、文章・段落・文・文節・単語などの単位で分けられることを理解している。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】 文を文節にくぎっている。</p> <p>【Cへの支援】 それぞれの用語について定義している部分を、教科書から指摘させる。</p>	
9月	四表現に立ち止ま	河童と蛙	1	●場面と人物の対応を捉えて読む。	<p>1 詩の登場人物の役割を捉え、詩の内容を生かすように朗読する。</p>	<p>C(1)ア</p> <p>C(1)ウ</p> <p>伝国(1)イ(オ)</p> <p>言語活動例</p> <p>C(2)ア</p>	<p>◇国語への関心・意欲・態度</p> <p>・詩に描かれた情景を豊かに想像し、音読や朗読に生かそうとしている。</p> <p>◇読む能力</p> <p>・文脈や場面展開をもとに人物や場面の様子を想像している。</p> <p>◇言語についての知識・理解・技能</p> <p>・反復表現やおノマトペなど、詩の特</p>	<p>◇国語への関心・意欲・態度</p> <p>【Bの判定基準】 自分なりの読みの根拠や理由をもって音読や朗読をしようとしている。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】 自分の読みをどのように音読や朗読に生かすことができるか、さまざまに工夫しようとしている。</p> <p>【Cへの支援】 音読や朗読にどのような工夫の仕方があるか理解させ、それを詩の読みと関係づけるように助言する。</p> <p>◇読む能力</p>

る						<p>徴を捉えて朗読の仕方を工夫している。</p>	<p>【Bの判定基準】 文脈上の意味や場面展開にそって人物の様子や心情を想像している。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】 前後の文脈や場面展開の違いを意識しながら人物の様子や心情の変化を豊かに想像している。</p> <p>【Cへの支援】 人物の様子や心情について、叙述に即して想像するように助言する。</p> <p>◇言語についての知識・理解・技能</p> <p>【Bの判定基準】 反復表現やオノマトペなどに注目し、音読や朗読を工夫している。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】 反復表現やオノマトペなどに注目し、文脈や場面展開にふさわしい音読や朗読を工夫している。</p> <p>【Cへの支援】 場面ごとの学習者の読みに即して、どのように音読や朗読をするか考えさせる。</p>
	オツベルと象	7	<p>● 作品の構成や展開、表現の特徴について自分の考えをもつ。</p> <p>● 語句の意味や擬声語・擬態語に注意し、その工夫や効果を理解する。</p>	<p>1 全文を音読し、擬声語・擬態語の使われ方の特徴とその効果を考える。</p> <p>2 「オツベル」と「白象」はどのような人物として描かれているか、会話部分に着目しながらまとめる。</p> <p>3 「第一日曜」「第二日曜」のできごとと、「第五日曜」のできごとから、共通点と相違点を比べる。</p> <p>4 「ああ、ありがとう。ほんとに僕は助かったよ。」(P94L7)と、白象が「寂しく笑って」言った理由</p>	<p>C(1)エ 伝国(1)イ(ア) 伝国(1)イ(イ) 伝国(1)イ(オ) 言語活動例 (*)</p>	<p>◇国語への関心・意欲・態度</p> <p>・作品の展開や登場人物に関心を持ち、あらすじを捉えようとしている。</p> <p>◇読む能力</p> <p>・作品の構成や展開、表現の特徴に関心を持ち、自分の考えをもっている。</p> <p>◇言語についての知識・理解・技能</p> <p>・語句の意味や擬声語・擬態語に注意し、その工夫や効果を理解している。</p>	<p>◇国語への関心・意欲・態度</p> <p>【Bの判定基準】 それぞれの登場人物に関心を持ち、あらすじをまとめようとしている。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】 オツベルと白象、牛飼いにどのような特徴があるかをまとめ、それを交えて作品の展開を他の人に紹介しようとしている。</p> <p>【Cへの支援】 登場人物をあげさせ、結末がどうなったのかをまとめさせる。</p> <p>◇読む能力</p> <p>【Bの判定基準】 作品の構成や展開、表現の特徴に関心を持ち、自分の考えをもっている。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】 オツベルが見ている世界、白象が見ている世界、そして牛飼いが見ている世界がそれぞれどのようなものであるか、教材の構成や展開、表現の特徴をもとにした考えをもっている。</p> <p>【Cへの支援】 「オツベルときたらたいしたもんだ。」「オツベルかね、そのオツベルは、俺も言おうとしてたんだが、いなくなったよ。」という場面の始まりの文に着目し、それらがどのような意識から発せられた言葉であるかを考えさせる。</p> <p>◇言語についての知識・理解・技能</p> <p>【Bの判定基準】 擬声語・擬態語を捉えて、その効果を考えている。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】 「のんのんのん」「グララアガア」「ドーン」などの表現が繰り返し現れることを理解し、それらがもつ効果を指摘している。</p> <p>【Cへの支援】 擬声語・擬態語がどのようなものであるのか、他の例を示す</p>

			<p>について発表し合い、文章にまとめる。</p> <p>5 「第一日曜」「第二日曜」と「第五日曜」では、牛飼いの語り方が変化していることを踏まえ、牛飼いがどのような気持ちでこの物語を語ったのかを考える。</p> <p>6 『オツベルと象』についてグループごとに感想を述べ合い、交流したうえで、感想文を書く。</p> <p>7 感想を発表し交流する。</p>			<p>などして理解させ、作品中の表現がどのようなことをさしているのか考えさせる。また、描かれている世界がどのようなイメージのものなのか、絵などに描くことによって、表現方法の意味を理解させる。</p>
<p>【書く】 行事などの案内文を書く</p>	4	<p>●行事の案内文に必要な内容や構成を理解する。</p> <p>●「推敲のポイント」に従って文章を推敲する。</p>	<p>1 行事の案内の中で伝えたいことを検討して、整理する。</p> <p>2 伝えたい内容や、案内文の形式などを踏まえて書く。</p> <p>3 教科書P98の「推敲のポイント」にそって推敲する。</p> <p>4 案内文を読み合い、相手や目的に合った表現の仕方について考える。</p>	<p>B(1)エ 伝国(1)イ(ウ) 言語活動例 B(2)ウ</p>	<p>◇国語への関心・意欲・態度</p> <ul style="list-style-type: none"> 案内文に必要な内容や構成を理解して、文章を書こうとしている。 <p>◇書く能力</p> <ul style="list-style-type: none"> 書いた文章を読み返し、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、読みやすくわかりやすい文章にしている。 <p>◇言語についての知識・理解・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> 案内文にふさわしい簡潔に内容を表す語句を選択している。 	<p>◇国語への関心・意欲・態度</p> <p>【Bの判定基準】案内文に必要な内容や構成を理解して、文章を書こうとしている。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】案内文に必要な内容や構成を理解したうえで、相手や目的を意識して、わかりやすい文章を書いている。</p> <p>【Cへの支援】教科書P99の「案内文の例」から、案内文に必要な内容や構成について書き出させようとして、記述させる。</p> <p>◇書く能力</p> <p>【Bの判定基準】書いた文章を読み返し、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、読みやすくわかりやすい文章にしている。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】書いた文章について、相手や目的を踏まえ、漢字と仮名を適切に使い分けたり、情報の量や順番、文や段落の長さ、段落の接続の関係を確かめたりして、読みやすくわかりやすい文章にしている。</p> <p>【Cへの支援】指導者が、不完全な案内文を提示して、その中から推敲の視点をあげさせようとして、自分の文章を推敲させる。</p> <p>◇言語についての知識・理解・技能</p>

							<p>[Bの判定基準] 案内文にふさわしい簡潔に内容を表す語句を選択している。</p> <p>[Aの具体的な姿の例] 案内文にふさわしく簡潔に内容を表すとともに、相手にとって効果的な語句を選択している。</p> <p>[Cへの支援] 二種類の文例から、案内文にふさわしい例を選ばせ、その理由を考えさせる。</p>
10 月	漢字の広場2 画数と活字の 字体	1	●画数と活字の字体 についての理解を 深める。	1 実際に文字を書 き記すための基準 となる「教科書体」 の活字に着目し、 正確な画数と字形 に基づいた文字を 書く態度を身につ けるとともに、画 数をもとに漢和辞 典の総画索引や部 首索引を使用する 方法を練習する。	伝国(1)ウ(ア) 伝国(1)ウ(イ)	◇ 国語への関心・意欲・態度 ・画数と漢字の字体の 関係に注意し、 正しい筆づかいを守 ろうとしている。 ◇ 言語についての知識・理 解・技能 ・活字の体による字形 の違いを理解して いる。	◇ 国語への関心・意欲・態度 [Bの判定基準] 筆順を 守り、教科書体に基づ いて書き記そうとし ている。 [Aの具体的な姿の例] 日 常目にするさまざま な活字について字形 の違いを確認しよ うとしている。 [Cへの支援] 小学校学 習漢字を用いて筆順 の原則を再確認させ る。 ◇ 言語についての知識・理 解・技能 [Bの判定基準] 「糸」「 衣」「近」「比」など の字形が、活字によ って異なり、画数が 違って見えることを 理解している。 [Aの具体的な姿の例] 教 科書体で記された新 出漢字の画数を把握 し、漢和辞典の総画 ・部首索引で当該の 漢字を確認してい る。 [Cへの支援] ワープロ ソフトの各種フォント の違いによる字形の 差を、小学校学習漢 字を中心にして確か めさせる。
	言葉の小窓2 日本語の文字 言葉(解説)2 日本語の文字	2	●日本語を書き表す 文字の特徴を理解 する。	1 教材文を讀ん で、「平仮名の成 立」までを理解す る。 2 前時で学習し たことを復習し、 「いろは歌」まで を理解する。	伝国(1)ウ(ア) 伝国(1)ウ(イ)	◇ 国語への関心・意欲・態度 ・日本語の文字の特 徴に興味をもち、 知識を深めようとし ている。 ◇ 言語についての知識・理 解・技能 ・日常で用いている 日本語の文字の歴史 を知り、日本語に対 する理解を深めて いる。	◇ 国語への関心・意欲・態度 [Bの判定基準] 日常生 活の中で使っている 日本語の文字表記が 、特徴のある興味 深いものだと感じ ている。 [Aの具体的な姿の例] 言 葉の表記について理 解するだけでなく、 集めて分析してい る。 [Cへの支援] 「ハルと アキの会話」に再度 取り組ませ、平仮名 や片仮名の成り立ち を、表で確認するよ う促す。 ◇ 言語についての知識・理 解・技能 [Bの判定基準] 片仮 名やローマ字、いろ はを用いて表現され ているものを見つ けられる。 [Aの具体的な姿の例] 身 近に用いられている ものを表記別に発見 し、そこで用いら れている表記の効果 を考えている。 [Cへの支援] さまざま な表現形式のおもしろ さを伝える。
	五 古 典 と 出	古典の扉を開 く	3	●登場人物の行動や 場面を捉え、作品 の理解を深める。 ●古典にはさまざま な作品があること	1 全文を通読し、 歴史的仮名遣いに 注意して川柳を視 写したり音読した りして、その内容	伝国(1)ア(ア) 伝国(1)ア(イ) C(1)ウ 言語活動例 C(2)ア	◇ 国語への関心・意欲・態度 ・作品のおもしろさ や特徴について話 し合おうとしてい る。 ◇ 読心能力 ・それぞれの作品の おもしろさや昔の

会 う			や、古典の仮名遣いのきまりを知る。	<p>を想像し、文章にまとめる。</p> <p>2 歴史的仮名遣いと現代仮名遣いの違いを知り、『東海道中膝栗毛』のあらすじを捉え、配役を決めて音読する。</p> <p>3 『東海道中膝栗毛』のおもしろさについて話し合ったあと、「知音」の意味を踏まえて古典のよさについて考える。</p>		<p>人のものの見方や考え方を捉えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> さまざまな古典の作品にふれながら、歴史的仮名遣いのきまりを理解している。 <p>◇言語についての知識・理解・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> 文語の文章の特徴を理解し、古典特有のリズムを味わいながら音読している。 	<p>への興味を抱いたりしている。</p> <p>【Cへの支援】興味を抱いたところを振り返らせ、他の箇所への学習へと広げていくようにさせる。</p> <p>◇読心能力</p> <p>【Bの判定基準】場面や人物の様子を想像し、作品のおもしろさや昔の人のものの見方や考え方について述べている。</p> <p>さまざまな古典の作品の文章に視写や音読をとおしてふれながら、歴史的仮名遣いのきまりや語句の意味を理解している。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】場面や人物の様子を想像し、作品のおもしろさや昔の人のものの見方や考え方について、自分の思いを加えたり、現代との共通点を考えたりしながら述べている。</p> <p>さまざまな古典の作品の文章について視写や音読をとおしてふれ、現代仮名遣いと共通点や相違点にも気づきながら、歴史的仮名遣いのきまりや語句の意味を理解している。</p> <p>【Cへの支援】P105L2の「……」にはどのような言葉が入るかを考えさせるなどして、登場人物の様子を想像させる。先にP119のコラムを解説する。</p> <p>◇言語についての知識・理解・技能</p> <p>【Bの判定基準】作品における文語の文章の特徴を理解し、作品ごとに古典特有のリズムを味わいながら音読している。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】作品における文語の文章の特徴を理解し、作品ごとに古典特有のリズムを味わいながら、おもしろさが伝わるように工夫して音読している。</p> <p>【Cへの支援】範読を聞かせたり、仮名遣いや語句の意味の違いを確認させたりしたうえで、作品を音読させる。</p>
	物語の始まり	3	<ul style="list-style-type: none"> ●物語について調べたり、話し合ったりして、そのおもしろさを理解する。 ●古典の仮名遣いに注意して音読し、物語の内容を捉える。 	<p>1 『竹取物語』について知っていることを発表したり、前半部を通読したり音読したりする。</p> <p>2 後半部を通読したり音読したり、歴史的仮名遣いに注意しながら原文をノートに書き写</p>	<p>伝国(1)ア(ア) C(1)ウ 言語活動例 C(2)ア</p>	<p>◇国語への関心・意欲・態度</p> <ul style="list-style-type: none"> 音読などとおして、古典に興味をもって学習しようとしている。 <p>◇読心能力</p> <ul style="list-style-type: none"> 『竹取物語』の概要を理解し、作品のおもしろさについて発言している。 場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容の理解に役立っている。 <p>◇言語についての知識・理解・技能</p>	<p>◇国語への関心・意欲・態度</p> <p>【Bの判定基準】作品を視写したり音読したりしながら読み、作品のおもしろさについて興味をもって話し合おうとしている。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】作品を視写したり音読したりしながら読み、作品のおもしろさについて話し合ったり、他の場面を読んだりしている。</p> <p>【Cへの支援】『竹取物語』について、今回新たに学んだことを発表させる。</p> <p>◇読心能力</p> <p>【Bの判定基準】『竹取物語』についてすすんで調べたり、他の場面を読んで感想などを話し合ったりしたうえで、作品のおもしろさについて発言している。</p> <p>歴史的仮名遣いのきまりに注意しながら音読し、場面の展開や登場人物</p>

			したりする。 3 『竹取物語』について調べたり、話し合ったりして、そのおもしろさを考える。		・文語の文章の特徴を理解し、古典特有のリズムを味わいながら音読している。	などの描写をおさえて読み、内容の理解に役立てている。 【Aの具体的な姿の例】『竹取物語』についてすすんで調べたり、他の場面を読んで感想などを話し合ったりしたうえで、作品のおもしろさについて発言している。 歴史的仮名遣いのきまりに注意しながら音読し、原文や梗概、絵巻の説明などから場面の展開や登場人物などの描写をおさえ、『竹取物語』の構成と内容を理解している。 【Cへの支援】『物語の始まり』で紹介された場面や登場人物について、興味をもったところやおもしろいと感じたところを指摘させる。 『古典の扉を開く』の学習も想起させながら、P119の「古典の仮名遣い」を読ませる。 ◇言語についての知識・理解・技能 【Bの判定基準】作品における文語の文章の特徴を理解し、古典特有のリズムを味わいながら音読している。 【Aの具体的な姿の例】作品における文語の文章の特徴を理解し、古典特有のリズムを味わいながら、おもしろさが伝わるように工夫して音読している。 【Cへの支援】範読を聞かせたり、仮名遣いや語句の意味の違いを確認させたりしたうえで、作品を音読させる。
故事成語	3 (内, 書1)	●いろいろな故事成語について調べたり、発表したりして、由来や意味を理解する。 ●漢文訓読のきまりを理解したり、音読したりして、文章の響きを味わう。	1 「矛盾」の盾と矛を売る人の話でつじつまの合わない点について考え、発表する。 2 書き下し文をノートに書き写したり音読したりして漢文訓読のきまりを理解する。 3 いろいろな故事成語の意味や由来を調べ、それを使った短い文を書き、発表する。	伝国(1)ア(ア) C(1)ウ 言語活動例 C(2)ア	◇国語への関心・意欲・態度 ・漢文や故事成語に興味をもち、音読したり、いろいろな故事成語を使った文章を書こうとしたりしている。 ◇読心能力 ・「矛盾」をはじめ、他の故事成語についても調べたり、発表したりして、由来や意味を理解している。 ◇言語についての知識・理解・技能 ・漢文訓読のきまりを理解して、音読している。	◇国語への関心・意欲・態度 【Bの判定基準】課題にそって作品を読み、他の故事成語についても音読したり、紹介したりしようとしている。 【Aの具体的な姿の例】他の故事成語について意味や由来を詳しく調べ、紹介しようとしている。 【Cへの支援】教科書に掲載されている故事成語以外で、学習者が耳にしたことがありそうな故事成語を指導者が紹介し、その中から一つ選んで調べさせる。 ◇読心能力 【Bの判定基準】「矛盾」のもとになった漢文のあらすじを捉えることをはじめ、他の故事成語についても、もととなった漢文を調べたり、発表したりして、由来や意味を理解している。 【Aの具体的な姿の例】『商人が答えられなかった理由にふれ、「矛盾」の由来を理解している。 【Cへの支援】商人の盾と矛の説明について、どちらかが本当だとすると、もう一方は嘘になるということに気づかせ、由来に迫らせる。 ◇言語についての知識・理解・技能 【Bの判定基準】漢文訓読のきまりを知り、漢文を音読して漢文独特の文

							<p>章の響きを味わっている。</p> <p>[Aの具体的な姿] 他の故事成語についても調べ、書き下し文にしたり、音読したりして文章の響きを味わい、理解を深めている。</p> <p>[Cへの支援] 送り仮名や返り点などに注意して、短い言葉や熟語を書き下し文にさせる。</p>	
					B(1)イ	<p>◇書く能力</p> <p>・調べた故事成語を使って短い文章を書いている。</p>	<p>◇書く能力</p> <p>[Bの判定基準] 故事成語の意味と由来を理解し、それをういて適切に文章を書いている。</p> <p>[Aの具体的な姿の例] 故事成語から、現代に受け継がれている古人のものの見方や考え方を読み取り、それを使って的確な文章を作っている。</p> <p>[Cへの支援] 身のまわりのつじつまが合わないことを題材にして、「矛盾」を用いて短い文章を書かせる。</p>	
	蜘蛛の糸	3	<p>●わが国を代表する作家とその作品についてふれ、近代の小説や物語を読む。</p>	<p>1 全文を通読し、物語のあらすじを捉える。</p> <p>2 『蜘蛛の糸』以外の近代小説を読む。</p> <p>3 近代小説についての紹介文を書き、意見を交換する。</p>	<p>C(1)カ 伝国(1)イ(イ) 言語活動例 C(2)ウ</p>	<p>◇国語への関心・意欲・態度</p> <p>・代表的な作家とその作品に興味をもち、近代文学を読もうとしている。</p> <p>◇読む能力</p> <p>・近代の物語や小説を読み、作品のあらすじを捉えている。</p> <p>◇言語についての知識・理解・技能</p> <p>・作品解説の「言葉の装置」(P130下20)という表現について考えている。</p>	<p>◇国語への関心・意欲・態度</p> <p>[Bの判定基準] 近代文学の作品に興味をもち、他の作品を読もうとしている。</p> <p>[Aの具体的な姿の例] 近代文学の作品とその作家に興味をもち、他の作品や作家、時代背景などについて調べ、読もうとしている。</p> <p>[Cへの支援] 教科書P131～133のビジュアル資料などを参考にしながら、近代文学へ興味をもたせる。</p> <p>◇読む能力</p> <p>[Bの判定基準] 資料などを参考にしながら、作品のあらすじを捉えている。</p> <p>[Aの具体的な姿の例] 作品解説などの資料を参考にしながら作品のあらすじを捉え、蓮池の風景が示していることを解釈している。</p> <p>[Cへの支援] 場面ごとに登場人物とあらすじを確認させる。</p> <p>◇言語についての知識・理解・技能</p> <p>[Bの判定基準] 作品解説を読み、内容について考えている。</p> <p>[Aの具体的な姿の例] 「言葉の装置」という表現について考え、他の作品を読むときにもその視点を踏まえている。</p> <p>[Cへの支援] あらすじを確認させながら、作品解説を再読させ、さまざまな読み方ができることに気づかせる。</p>	
	漢字の練習2	—	—	—	<p>伝国(1)ウ(ア) 伝国(1)ウ(イ)</p>	—	—	
11月	六説明	文章の構成や表現の特徴を捉えて読む	2	<p>●筆者の考えとその根拠に注意して、文章の構成や展開</p>	<p>1 全文を通読し、文章の構成や展開を捉え、電子レン</p>	<p>C(1)ア C(1)イ 伝国(1)イ(イ)</p>	<p>◇国語への関心・意欲・態度</p> <p>・筆者の考え方や説明の仕方に関心をもち、図表との関連を考えようとし</p>	<p>◇国語への関心・意欲・態度</p> <p>[Bの判定基準] 筆者の考え方や説明の仕方に関心をもち、図表との関連を考えながら読もうとしている。</p>

を 比 べ る	1 電子レン ジの発想		捉える。 ●筆者の説明の仕方に注意して読み、文章の表現の仕方の工夫を捉える。	ジの加熱の仕方を図式化して説明する。 2 表現の特徴について話し合い、文章の表現の仕方の工夫を捉え、自分の表現に生かせるところはないか考え、ノートにまとめる。	伝国(1)イ(オ) 言語活動例 C(2)イ	ている。 ◇ 読む能力 ・筆者の考えとその根拠に注意して、文章の構成や展開を捉えている。 ・筆者の説明の仕方に注意して読み、文章の表現の仕方の工夫を捉えている。 ◇ 言語についての知識・理解・技能 ・語句の文脈上の意味を理解するとともに、比喩を用いた表現の効果について理解している。	[Aの具体的な姿の例] 筆者の考え方や説明の仕方に着目して読み、図表との関連をノートにまとめたり、グループで話し合ったりしている。 [Cへの支援] 段落ごとの内容を捉えさせたり、図表がない状態で文章を読んだ場合に印象はどのように変わるかを考えさせたりする。 ◇ 読む能力 [Bの判定基準] 段落ごとの内容をまとめながら、筆者の考えとその根拠に注意して、文章の構成や展開を捉えている。 図表との関連や、比喩や専門用語、数字の使い方など、筆者の説明の仕方に注意して読み、文章の表現の仕方の工夫を捉えている。 [Aの具体的な姿の例] 段落ごとの内容を理解し、図式化して説明しながら、筆者の考えとその根拠に注意して、文章の構成や展開を捉えている。 図表の効果的な使い方や、比喩や専門用語、数字の使い方などを考えて内容理解に役立てながら、筆者の説明の仕方に注意して読み、文章の表現の仕方の工夫を捉えている。 [Cへの支援] 段落ごとの小見出しをつけたりキーワードを探したりして、要点を捉えさせる。 図表と本文との関連を考えさせる。 ◇ 言語についての知識・理解・技能 [Bの判定基準] 語句の文脈上の意味を理解して文章を読むとともに、比喩を用いた表現の内容を理解している。 [Aの具体的な姿の例] 「マイクロ波」や「水の粒」などの用語が文脈上でどのように使われているかを理解したり、「おしくらまんじゅう」という比喩が表現上どのような効果をもっているか考えたりしている。 [Cへの支援] 専門用語の辞書的な意味と、文脈上の使われ方を比べさせる。また、比喩を用いなかった表現にすると、どのようになるか考えさせる。
	2 言葉のゆれを考える	3 (内、書1)	1 全文を通読し、筆者が読者に問いかけている文と、その答えにあたる文をそれぞれ抜き出し、それぞれの答えは何を根拠にしているか、探して確認する。 2 グラフから読み取れることを確か	1 全文を通読し、筆者が読者に問いかけている文と、その答えにあたる文をそれぞれ抜き出し、それぞれの答えは何を根拠にしているか、探して確認する。 2 グラフから読み取れることを確か	C(1)ア C(1)イ 伝国(1)イ(ウ) 言語活動例 C(2)イ	◇ 国語への関心・意欲・態度 ・筆者の説明の仕方を捉えながら、「言葉のゆれ」について考えようとしている。 ◇ 読む能力 ・文章の構成や表現の特徴を捉えている。 ・文章と図表を照らし合わせながら関連を的確に捉え、内容を理解している。 ◇ 言語についての知識・理解・技能	◇ 国語への関心・意欲・態度 [Bの判定基準] 筆者の説明の仕方を捉えながら、「ら抜き言葉」について理解し、「言葉のゆれ」について考えようとしている。 [Aの具体的な姿の例] 筆者の、データをもとに分析を進める説明の仕方を捉えながら、「言葉のゆれ」について関心を持ち、具体的な事柄をめぐって、自分の考えをわかりやすく根拠をあげて説明しようとしている。 [Cへの支援] 本教材の冒頭に出てくる、「言葉のゆれ」の事実を丁寧に確認し、導入とする。小集団の中で事例をあげさせながらやりとりさせ、発言する機会も作り出し、理解や授業への参加意識を高めた。「ら抜き言葉」の調査結果に出てくる具体例にそって、身のまわりの具体的事実にも注意を喚起させ、その問題とされている事柄を確認しながら学習を進める。

			める。また、いろいろな動詞を「……ことができる」を意味する形にする。		・身のまわりの言葉の現象について、自分の言語生活との関わりに関心をもっている。	<p>◇読む能力</p> <p>【Bの判定基準】 文末表現などに着目して、「疑問・根拠・答え」というかたちで全体の構成を捉え、内容を理解している。</p> <p>文章と図表を照らし合わせながら関連を的確に捉え、内容を理解している。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】 文末表現などに着目しながら「疑問・根拠・答え」というかたちで全体の構成を捉え、筆者の効果的な表現の仕方を理解している。</p> <p>文章と図表の関連を的確に捉えて内容を理解し、さらに、自分自身が何かを説明するとき、図表を効果的に活用している。</p> <p>【Cへの支援】 教材において、接続語や文末表現から、「疑問・根拠・答え」にあたる部分を確認させながら「事実」と「考え」を読み分け、筆者がどのように文章を展開しているか整理させる。</p> <p>五つの図について、文章とグラフの数値などを確認させながら、①何が読み取れるか。②どう使われているのか。③それぞれの図の効果の違い。を考えさせる。特に③は小集団での話し合いで指摘させる課題として適している。この話し合い活動により、グラフの違いによる効果の違いを、共通点・相違点・変化の仕方などのさまざまな面から考えさせ、共有させることができる。</p> <p>◇言語についての知識・理解・技能</p> <p>【Bの判定基準】 「言葉のゆれ」など、身のまわりの言葉の現象について、自分の言語生活との関わりに関心をもっている。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】 「言葉のゆれ」など、身のまわりの言葉の現象について、自分の言語生活との関わりに関心を持ち、さまざまな客観的資料にあたるなどして理解を深めている。</p> <p>【Cへの支援】 それぞれの図の質問に答えさせ、友達の話や調査結果と照らし合わせ、自分の言葉に対する認識を見つめ直す機会をつくる。無味乾燥なデータの話ではなく、身近な人々の言語意識や自分自身の言語感覚を見つめ、その違いや共通点を楽しむところから始めたい。</p>
		3	文末表現の違いと効果を考え、「ら抜き言葉」について、四百字程度で意見文を書く。	B(1)ウ	<p>◇書く能力</p> <p>・根拠を明確にして、自分の考えを文章にまとめている。</p>	<p>◇書く能力</p> <p>【Bの判定基準】 「ら抜き言葉」について、筆者が取り上げた資料や、自分たちの日常生活での例や経験などを振り返りながら、四十分で、四百字程度で意見文を書いている。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】 「ら抜き言葉」だけでなく、「言葉のゆれ」について関心を持ち、マスメディアやインターネットからの情報も利用し、具体的な事柄を取り上げ、自分の考えを、わかりやすく、根拠をあげて、四十分で、</p>

						<p>四百字程度で意見文を書いている。</p> <p>【Cへの支援】 本教材で読み取ったことをもとに、筆者の考えに対して、どう考えるかを意識させ、理由を二つ以上あげさせ、三百二十字以上で書くことができるように助言する。</p>
3	花の形に秘められたふしぎ	5 (内, 書1)	<p>1 全文を通読し、花の形にどのようなふしぎが秘められているのかを捉える。</p> <p>2 「グラフ」を使って、花に集まる昆虫の偏りを具体的に説明する。</p> <p>3 筆者はどのように事実と推論を述べているか、文章全体の構成と展開に着目して説明する。</p> <p>4 昆虫と花の形の多様さとの関係について、本文やグラフの数値を用いながら説明する。</p>	<p>C (1)ア C (1)イ C (1)エ 伝国(1)イ(エ) 言語活動例 C (2)イ</p>	<p>◇国語への関心・意欲・態度</p> <ul style="list-style-type: none"> 文章と図表などとの関連を考えながら、筆者の説明の仕方に注意して文章を読もうとしている。 <p>◇読む能力</p> <ul style="list-style-type: none"> 筆者の考えとその根拠を読み分け、文章の構成や展開とともに表現の特徴を捉えている。 本文章、また、本単元内の三本の説明文について、文章の構成や展開、表現の仕方の特徴を整理している。 <p>◇言語についての知識・理解・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> 指示語が指し示す文脈上における意味を捉えている。 	<p>◇国語への関心・意欲・態度</p> <p>【Bの判定基準】 文章と図表の関連をはじめ、筆者の説明の仕方の工夫など、説明的文章の魅力にふれて読もうとしている。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】 説明的文章における図表がもつ役割の重要さに気づくとともに、筆者の文章における説明のしかけにおもしろさを感じている。</p> <p>【Cへの支援】 文章と図表との関連に自ら気づくことができるよう、「みちしるべ」の【深めよう 3】の学習活動の時間を十分に確保することが重要となろう。また、Cの学習者の多くは、抽象的・形式的な思考を不得手とするので、具体的な操作による思考で読みが進められるようにしたい。そのため一例として、教科書の図表をコピーして切り取り、シールのように貼りつけながら論の展開を追えるようにするといった支援が考えられる。</p> <p>◇読む能力</p> <p>【Bの判定基準】 文章全体の構成と展開を踏まえたうえで五つの意味段落に分けるとともに、筆者の述べ方について自分なりにまとめている。</p> <p>本文章、また、本単元内の三本の説明文について、文章の構成や展開、表現の仕方の特徴について、共通点や相違点を整理している。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】 問いと事実と意見とを読み分け、五つの意味段落に的確な見出しをつけるとともに、筆者の効果的な述べ方についてまとめている。</p> <p>三本の説明文について、文章の構成や展開、表現の仕方の特徴を整理し、筆者の書き方の工夫の効果について理解している。</p> <p>【Cへの支援】 個人作業を共同化するなどし、学習者どうしが互いに学び合っていけるようなかたちとするのがよい。</p> <p>Cの学習者には文章の構成がより明確になるような活動を取り入れることが有効であろう。三本の説明文を漠然と整理するのではなく、「構成」「展開」「表現」の観点に着目し、それぞれの文章の特徴を整理すると同時に、読み手の読みやすさといった文章全体の論理の流れや、個々の特徴あるわかりやすさなどの効果についても考え（評価）させて比較できるよう導きたい。</p> <p>◇言語についての知識・理解・技能</p> <p>【Bの判定基準】 「この」「こうした」「その」「このように」といった語句</p>

						<p>の指し示す内容を的確に捉えてまとめている。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】「この」「こうした」「その」「このように」といった語句の指し示す部分を教科書本文から拾い上げ、本文の流れに即したかたちでまとめている。</p> <p>【Cへの支援】指示語が指し示す部分を捉えさせるには、関係するその部分だけを読ませてもらうまいか。本文全体の流れを読むことが重要となる。それについては、本時だけでの対応は時間的にも難しくなるため、音読を課して読みの量を確保させておくのは一つの方法であろう。また、指示語に傍線を引かせ、指し示す部分がどこであるかを鉛筆で囲ませておくなど、こちらも家庭学習とはなるが本時を前に先手を打っておくのも一つの方法と考えられる。</p>
			5 三つの教材文を比較し、構成・展開・表現に着目し、共通点や相違点をまとめる。	B(1)イ	<p>◇書く能力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三つの文章がもつ「構成・展開・表現」の特徴を分類・整理し、共通点や相違点をまとめている。 	<p>◇書く能力</p> <p>【Bの判定基準】三つの文章がもつそれぞれの特徴を分類・整理し、「構成・展開・表現の特徴」の要素に分けられた一覧表にまとめている。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】それぞれの文章の特徴を単に羅列するだけでなく、一つの観点ごとにそれぞれの文章を比較したうえで表に整理している。</p> <p>【Cへの支援】既に終えた教材文を含めた学習であることが、学習者にとってやりにくいと思われる。そこで、『花の形に秘められたふしぎ』だけでなく、他の二教材を合わせた単元としてのまとまりある学習に設定しておくことよい。（「学習指導要領との関連〈言語活動と教材の特性について〉参照。）単元の始まりに、「三つの文章の特徴を分類・整理して、『構成・展開・表現の特徴』の要素で一覧表にまとめる」ことがゴールであることを見通させておくということである。ただ、これについては子どもを主体的な学習者とするためには必須のものであり、「C」への支援というよりは誰にも必要な指導者による指導ということになる。また、単元の終わりには「目標に対する振り返り」を「みちしるべ」にあるチェックボックスなどを利用して取り組ませる必要がある。</p>
【話す聞く】 友達のスピーチを聞く	4	<ul style="list-style-type: none"> ●友達のスピーチを聞いて、必要に応じて質問する。 ●自分の考えとの共通点や相違点を整理する。 	<p>1 日常生活の中から話題を決め、スピーチ原稿を考える。</p> <p>2 話す側、聞く側の役割を確認し、聞き手は、観点にそって友達のスピーチを聞き、適宜</p>	A(1)エ 伝国(1)イ(ウ) 言語活動例 A(2)ア	<p>◇国語への関心・意欲・態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の話題についての報告を聞き、よい聞き方について考えようとしている。 <p>◇話す・聞く能力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えとの共通点や相違点を考えながら聞いている。 <p>◇言語についての知識・理解・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話の内容や構成について、共感や疑 	<p>◇国語への関心・意欲・態度</p> <p>【Bの判定基準】日常生活の話題についての報告を聞き、よい聞き方について考えようとしている。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】自分の考えと比べるために、確かめたいことや詳しく知りたいことについて質問し、互いの考えの共通点や相違点を整理しながら聞こうとしている。</p> <p>【Cへの支援】教科書P159の「友達のスピーチ」やワークシートを参考にして、自分が熱中していることについて考えさせ、自分のスピーチについて聞いてほしいことや聞き方などを考えさせる。</p>

				<p>質問する。</p> <p>3 前時の学習を振り返り、友達のスピーチを聞く。</p> <p>4 よりよい聞き方について、友達と話し合う。</p>		<p>問の言葉などを用いて聞いている。</p>	<p>◇話す・聞く能力</p> <p>[Bの判定基準] 自分の考えとの共通点や相違点を考えながら聞いている。</p> <p>[Aの具体的な姿の例] 話し手が言いたいことを確かめ、足りない情報を聞き出すために工夫して質問し、共通点や相違点をおさえて的確に自分の考えをまとめている。</p> <p>[Cへの支援] ワークシートなどを用いて、質問する項目を選ばせる。また互いの考えの共通点や相違点を整理するための具体的なポイントを助言する。</p> <p>◇言語についての知識・理解・技能</p> <p>[Bの判定基準] 話の内容や構成について、共感や疑問の言葉などを用いて聞いている。</p> <p>[Aの具体的な姿の例] 教科書やワークシートにある言葉を、必要に応じて工夫して使いながら聞いている。</p> <p>[Cへの支援] 教科書やワークシートにある言葉を参考にして、話を聞かせる。</p>
12月	<p>【書く】</p> <p>意見文を読み合う</p>	4	<p>●具体例や体験を根拠にして、意見文を書く。</p> <p>●互いに読み合い、文章のよさを発見し合う。</p>	<p>1 教科書P142の『言葉のゆれを考える』を読み、自分の体験も踏まえながら、何について論じられた文章なのかをつかむ。</p> <p>2 自分の立場を決め、「意見—根拠—まとめ」の順で構成を考える。</p> <p>3 構成に注意して、四百字程度で具体例を交えて意見文を書く。</p> <p>4 書いた文章を推敲して、友達と読み合い、よいところなどについて話し合う。</p>	<p>B(1)オ 伝国(1)イ(イ) 言語活動例 (*)</p>	<p>◇国語への関心・意欲・態度</p> <p>・具体例や体験に基づいて、意見文を書こうとしている。</p> <p>◇書く能力</p> <p>・書いた文章を互いに読み合い、根拠となる具体例の用い方などについて話し合い、自分の表現の参考にしている。</p> <p>◇言語についての知識・理解・技能</p> <p>・内容に即して文末表現を工夫し、文章を書いている。</p>	<p>◇国語への関心・意欲・態度</p> <p>[Bの判定基準] 具体例や自分の体験を根拠として用いて、意見文を書くようとしている。</p> <p>[Aの具体的な姿の例] 自分の主張したい意見や、文章の論旨が明快になるように根拠を効果的に用いようとしている。</p> <p>[Cへの支援] 教科書P161の「下書きの例」のような経験をしたことがないか想起させる。</p> <p>◇書く能力</p> <p>[Bの判定基準] 友達の意見文を読んで、自分の考えを広げたり、表現の参考にしたりしている。</p> <p>[Aの具体的な姿の例] 友達の意見文と自分の意見文とを読み比べ、それぞれのよさや工夫を積極的に意見交流している。</p> <p>[Cへの支援] 指導者が交流の場に入り、それぞれの意見文のよさや、交流の際の観点などを伝える。</p> <p>◇言語についての知識・理解・技能</p> <p>[Bの判定基準] 内容に即して文末表現を工夫し、文章を書いている。</p> <p>[Aの具体的な姿の例] 読み手に伝わりやすいように、文末表現を効果的に工夫して書いている。</p> <p>[Cへの支援] 同じ文末表現が続いていないか、主述のねじれがないか、指導者が支援をする。</p>
	漢字の広場3	1	●漢字の音と訓につ	1 漢字がそれぞれ	伝国(1)ウ(ア)	◇国語への関心・意欲・態度	◇国語への関心・意欲・態度

		漢字の音と訓		いての理解を深める。	にもつ「音」と「訓」、二つの読み方の違いに注目させ、その使い分けや留意すべき特質について理解を深め、練習課題を通じて知識の定着を図る。	伝国(1)ウ(イ)	・漢字の読みに興味をもち、それについての知識を深めようとしている。 ◇言語についての知識・理解・技能 ・漢字の音読み・訓読みを漢和辞典で確認している。	<p>[Bの判定基準] 漢字の音読み・訓読みを漢和辞典ですすんで調べようとしている。</p> <p>[Aの具体的な姿の例] 重箱読みや湯桶読みの熟語を辞典やパソコンを用いて調べようとしている。</p> <p>[Cへの支援] 小学校学習漢字を用いて漢字の「意味」と「音」について確認させる。</p> <p>◇言語についての知識・理解・技能</p> <p>[Bの判定基準] 音読みと訓読みの違いについて理解している。</p> <p>[Aの具体的な姿の例] 音読み・訓読みが混交している熟語や複数の読み方が成立する熟語について理解している。</p> <p>[Cへの支援] 教科書にある「常用漢字表」(P256)を使い、多くの漢字には音と訓の両方があることを確認させる。</p>
		文法の小窓2 文の成分 文法(解説)2 文の成分	3	●主語・述語・修飾語など、文の成分の役割について理解する。	<p>1 文節と文の成分の関係、主語・述語の関係について理解する。</p> <p>2 主語・述語以外の文の成分には修飾語・接続語・独立語があることを理解する。</p> <p>3 並立の関係・補助の関係と連文節について理解する。</p>	内容の取扱い2 (1)イ (2年 伝国(1)イ(ウ))	◇国語への関心・意欲・態度 ・日常生活の中で用いられているさまざまな文が「文の成分」によって構成されていることに関心をもとうとしている。 ◇言語についての知識・理解・技能 ・文の成分の種類と成分どうしの関係について理解している。	◇国語への関心・意欲・態度 <p>[Bの判定基準] 「文の成分」について理解し、「確かめよう」「考えよう」に取り組もうとしている。</p> <p>[Aの具体的な姿の例] 「確かめよう」「考えよう」や教科書の用例を参考にしながら、日常生活からさまざまな言葉を集め、「文の成分」にあてはめて考えようとしている。</p> <p>[Cへの支援] 「ハルとアキの会話」「確かめよう」に、再度、取り組ませ、文法を学習することの意味について考えるよう促す。</p> <p>◇言語についての知識・理解・技能</p> <p>[Bの判定基準] 文における五つの成分と、二種の連文節の特徴を理解している。また、文の中から、述語(述部)と主語(主部)を抽出している。</p> <p>[Aの具体的な姿の例] 文における文の成分どうし関係を把握し、傍線などで図示している。</p> <p>[Cへの支援] まず述語(述部)を指摘させ、それに対応する主語(主部)がどこにあるかを考えさせる。</p>
1月	七 発 想 を 広 げ る	言葉がつながり 世界遺産	6 (内、書2)	●筆者のものの見方や考え方を捉えるとともに、言葉のはたらきについての自分の考えをまとめる。 ●構成や展開に注意して読み、筆者のものの見方や考え方を	<p>1 全文を通読し、筆者が問いている文と、その答えにあたる文をそれぞれ抜き出す。</p> <p>2 日光の社寺の世界遺産としてのすばらしさについて、イコモスの専</p>	C(1)イ C(1)エ C(1)オ 伝国(1)イ(イ) 言語活動例 C(2)イ	◇国語への関心・意欲・態度 ・筆者のものの見方や考え方、言葉のはたらきに関心をもち、自分の考えをまとめようとしている。 ◇読心能力 ・筆者のものの見方や考え方を捉えるとともに、言葉のはたらきについての自分の考えをまとめている。 ・文章の構成や展開に注意して読み、	◇国語への関心・意欲・態度 <p>[Bの判定基準] 筆者のものの見方や考え方、言葉によるつながりに関心をもち、自分の考えをまとめようとしている。</p> <p>[Aの具体的な姿の例] 筆者のものの見方や考え方を捉えるとともに、言葉のはたらきについて、興味がわいたことや疑問に思ったことを自分の経験に照らし合わせて考えたり、調べたことをもとに考えをまとめたりしようとしている。</p> <p>[Cへの支援] 世界遺産に関わる職人たちの話の前に、『言葉によるつながり』を考える(P175)にあるように、先生や友達など、身のまわりの人々</p>

				<p>に迫るために、要約したり要旨を捉えたりする。</p> <p>3 「修復記録の蓄積」と「世代を超えた技術の伝承」に対して、「言葉」の使われ方、果たす役割についてまとめる。</p> <p>4 筆者の言葉に対する捉え方について話し合い、題名にこめられた筆者の思いに対する自分の考えをまとめる。</p>	<p>門家を驚かせた点をまとめる。</p> <p>3 「修復記録の蓄積」と「世代を超えた技術の伝承」に対して、「言葉」の使われ方、果たす役割についてまとめる。</p> <p>4 筆者の言葉に対する捉え方について話し合い、題名にこめられた筆者の思いに対する自分の考えをまとめる。</p>	<p>要約したり要旨を捉えたりしている。</p> <p>◇言語についての知識・理解・技能</p> <p>・語句の文脈上の意味を捉えて、自分の文章に用いている。</p>	<p>とのやりとりの中で、言葉によって思いが受け継がれていくような体験を考えさせることや、言葉によって意気込みや思いを共有することを実感した体験などを思い起こさせるような導入の工夫が考えられる。</p> <p>◇読心能力</p> <p>[Bの判定規準] 筆者のものの見方や考え方を捉え、自分の考えをまとめている。</p> <p>文章の構成や展開に注意して、要約して論理の流れを理解したり、要旨を捉えて筆者の考えを理解したりしている。</p> <p>[Aの具体的な姿の例] 言い換えや繰り返しの表現に着目したり、段落の構成・展開にも注意しながら筆者のものの見方や考え方を捉え、自分の経験に照らし合わせながら自分の考えをまとめている。</p> <p>構成や展開に注意して要約したり、要旨をまとめたりして、筆者の主張と表現の工夫について効果を考えている。</p> <p>[Cへの支援] 文章の構成や展開、表現の工夫が読み手にどのような印象を与えていたり、効果を生んでいるかを検討させたり、筆者の言葉を引用させながら自分の考えをまとめさせる。</p> <p>最初からまとまった意見を求めるのではなく、それぞれの事例やインタビューの言葉など、具体的な内容について考えたこと、思いついたことをメモさせ、考えたことを少しずつ整理させながら、意見を形成していく過程を大切にしたい。</p> <p>◇言語についての知識・理解・技能</p> <p>[Bの判定規準] 「蓄積」「伝承」「共有」など本文のキーワードとなる言葉の文脈上の意味を捉えて、自分の文章に用いている。</p> <p>[Aの具体的な姿の例] 「蓄積」「伝承」「共有」など本文のキーワードとなる言葉を用いて筆者のものの見方や考え方にふれながら、自分の意見を述べている。</p> <p>[Cへの支援] 筆者のものの見方や考え方と同時に、筆者の用いている表現に着目させて、意味を理解させる。</p>
			<p>5 本文中で人物の語りが「 」の形で引用されていることは、どのような効果をもたらしているかを考える。</p> <p>6 日々の生活の中</p>	<p>B (1)ア</p>	<p>◇書く能力</p> <p>・課題にそって、日々の中から材料を集め、自分の考えを読み手にわかりやすく書いている。</p>	<p>◇書く能力</p> <p>[Bの判定規準] 課題にそって、日々の中から材料を集め、自分の考えを読み手にわかりやすく書く工夫をしている。</p> <p>[Aの具体的な姿の例] 課題にそって、日々の中から材料を集めて分類・整理し、自分の考えを読み手にわかりやすく書く工夫を凝らしている。</p> <p>[Cへの支援] 文章の構成や文の書き出しの工夫や推敲など、文章を書くために、何をどのように材料を集め、どのように表現するか一つ一つの学習活動の過程を確認しながら、文章を書く力を育てる。</p>	

				で、言葉によって 思いが受け継がれ ていくように感じ た体験を文章にま とめる。				
		漢字の練習 3	—	—	伝国(1)ウ(ア) 伝国(1)ウ(イ)	—	—	
		【書く】 図表を用いて 報告する	6	●図表から情報を読 み取り、レポートを 書く。 ●相手や目的に応じ たわかりやすい文 章を書く。	1 学校生活の中か らテーマを決め て、アンケート調 査を行う。 2 アンケート結果 を集計して、結果 を図表に表す。 3 集めた調査結果 を読み取り、書く 順序を考える。 4 図表の内容をわ かりやすく説明し ながら、レポート を書く。 5 内容や表現を推 敲する。 6 効果的な図表の 使い方について、 友達と話し合う。	B(1)ア B(1)イ B(1)ウ B(1)エ B(1)オ 伝国(1)イ(ウ) 言語活動例 B(2)イ	◇国語への関心・意欲・態度 ・図表を用いた説明の文章を書こうと している。 ◇書く能力 ・集めた資料を分類し、相手や目的に 応じた効果的でわかりやすい構成 や表現を考えて、文章を書いてい る。 ◇言語についての知識・理解・技能 ・テーマにそったアンケート項目を立 てている。	◇国語への関心・意欲・態度 【Bの判定基準】 図表を用いた説明の文章を書こうとしている。 【Aの具体的な姿の例】 調査、分析、考察に意欲的に取り組み、図表を用いて わかりやすく、正確に伝わる文章を書こうとしている。 【Cへの支援】 自分のレポートが小学生に読まれることをイメージさせ、 学習の有用性を理解させる。 ◇書く能力 【Bの判定基準】 集めた資料を分類し、相手や目的に応じた効果的でわかり やすい構成や表現を考えて、文章を書いている。 【Aの具体的な姿の例】 集めた資料をさまざまな角度から分析し、相手が知 りたいと思う内容を、図表を効果的に用いて示し、自分の考えを述べてい る。 【Cへの支援】 調査結果を説明する際の視点や、言葉の使い方について支援 する。 ◇言語についての知識・理解・技能 【Bの判定基準】 テーマにそったアンケート項目を立てている。 【Aの具体的な姿の例】 相手の立場に立ち、相手が知りたいと思う内容を想 定して、それにそったアンケート項目を複数考えている。 【Cへの支援】 自分が中学校入学前に知りたかったことを思い出させ、その 内容が質問項目にならないか考えさせる。
2月	八 考 え を 共 有 す る	四季の詩	1	●それぞれの詩の題 材を捉え、描かれた イメージを想像す る。	1 それぞれの詩の イメージを想像 し、どのような季 節感が描かれてい るか話し合う。	C(1)ウ 伝国(1)イ(オ) 言語活動例 C(2)ア	◇国語への関心・意欲・態度 ・教材に取り上げられたそれぞれの詩 と積極的に向き合ってイメージ豊 かに理解しようとしている。 ◇読む能力 ・場面の展開や登場人物の描写に注 意して内容を想像している。 ◇言語についての知識・理解・技能 ・比喩や反復などの表現技法について	◇国語への関心・意欲・態度 【Bの判定基準】 それぞれの詩のどこに魅力があるかを理解しようとして いる。 【Aの具体的な姿の例】 それぞれの詩に積極的に向き合ってイメージ豊か に理解しようとしているとともに、同じ詩人の他の作品などに興味をも って自分の読書経験を広げようとしている。 【Cへの支援】 それぞれの詩を読み取るための着眼点を示し、その魅力につ いて解説する。 ◇読む能力

					理解し、その効果を考えている。	<p>【Bの判定基準】 教材に取り上げられたそれぞれの詩の魅力や表現方法について読み取っている。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】 それぞれの詩の魅力や表現方法について読み取り、その特徴を説明している。</p> <p>【Cへの支援】 それぞれの詩を読み取るための着眼点を示し、それぞれの詩の魅力とどう結びつかを考えさせる。</p> <p>◇言語についての知識・理解・技能</p> <p>【Bの判定基準】 それぞれの詩から比喩や反復などの表現方法を見つけ出し、その効果について理解している。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】 それぞれの詩から比喩や反復などの表現方法を見つけ出し、その効果についてこれまでに読んだことのある詩などと比較して評価している。</p> <p>【Cへの支援】 比喩や反復などの表現方法に関する基礎知識を復習し、詩のどこにその表現があるか探させる。</p>
文法の小窓 3 単語のいろいろ 文法（解説） 3 単語のいろいろ	3	●自立語と付属語、活用の有無などの、分類の基準について理解する。	<p>1 単語が自立語と付属語とに分けられることを理解する。</p> <p>2 活用のある単語と活用のない単語の区別を理解したうえで、文の中でのはたらきによって十の品詞に分けられることを理解する。</p> <p>3 品詞分類表よっての品詞分類の全体像を把握し、具体的な文例に即して言葉を分けて考えることの大切さを理解する。</p>	伝国(1)イ(エ)	<p>◇国語への関心・意欲・態度</p> <p>・言葉を細かく分けて考えるということに興味・関心をもとうとしている。</p> <p>◇言語についての知識・理解・技能</p> <p>・単語を品詞分類するにあたって必要な知識を理解している。</p>	<p>◇国語への関心・意欲・態度</p> <p>【Bの判定基準】 単語が十品詞に分類できることについて理解し、「考えよう」に取り組もうとしている。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】 教科書の用例を参考にしながら、日常生活の言葉を単語に分けて考えようとしている。</p> <p>【Cへの支援】 「ハルとアキの会話」「考えよう」に、再度、取り組ませ、文法を学習することの意味について考えるよう促す。</p> <p>◇言語についての知識・理解・技能</p> <p>【Bの判定基準】 自立語と付属語、活用のある語とない語、それぞれの違いを説明している。また、単独で文節をつくれるものが自立語で、形の変わるものが活用のある語であることを、事例に即して説明している。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】 活用のない自立語、活用のある自立語、活用のない付属語、活用のある付属語の、それぞれに含まれる十品詞をあげている。</p> <p>【Cへの支援】 文節のくぎり方を復習したり、簡単な例で活用の様子を確認したりさせる。</p>
漢字の練習 4	—	—	—	伝国(1)ウ(ア) 伝国(1)ウ(イ)	—	—
漢字の広場 4	1	●熟語の構成の基本	1 複数の漢字を組	伝国(1)ウ(ア)	◇国語への関心・意欲・態度	◇国語への関心・意欲・態度

熟語の構成		的な型を知る。	み合わせて作り出される言葉を「熟語」と呼ぶことを確認し、身近な例を取り上げ、構成法によって意味や内容が大きく変わること気づかせる。教科書にあげた構成法の各型に関する理解を深める。三文字以上の熟語の構成法についてグループ学習で確認する。日常生活の中から七つの型にあてはまる熟語を探す。	伝国(1)ウ(イ)	<ul style="list-style-type: none"> ・熟語の構成に興味をもち、さまざまな熟語の構成法を理解しようとしている。 ◇言語についての知識・理解・技能 ・熟語の構成法について知識を深めている。 	<p>【Bの判定基準】 熟語を見てどの構成法で作られているかを判断しようとしている。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】 熟語の構成法を理解し、積極的に新しい熟語を探したり自分で二字熟語や三字熟語を作ろうとしている。</p> <p>【Cへの支援】 自分のノートの中に書かれている熟語に注目させ、その構成法を考えることによって日常生活の中にある熟語に目を向ける態度を養わせる。</p> <p>◇言語についての知識・理解・技能</p> <p>【Bの判定基準】 教科書の説明に基づいて練習課題を解いている。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】 新出漢字の用例や教室内の掲示物の熟語について構成法を確かめたり、外来語を熟語に置きかえたりしている。</p> <p>【Cへの支援】 本教材学習の直前に取り上げた教材の中から文章を選び、「不」「未」「無」などがつく「接頭語型」熟語を見つけ出させる。同様に「接尾語型」熟語も調べさせる。両者は熟語の構成の中でも判別しやすい型である。</p>
少年の日の思い出	7 (内、話聞1)	<ul style="list-style-type: none"> ●語り手に着目して作品を読み、自分のものの見方や考え方を広げる。 ●場面の展開や人物の描写に注意して、登場人物の心情の変化を捉える。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 全文を通読し、あらすじを捉える。 2 登場人物を抜き出し、それぞれの関係についてノートにまとめる。3 「僕」と「エーミール」のチョウに対する考え方の違いを捉え、「エーミール」に対する心情の変化をノートにまとめる。 4 「エーミール」の部屋を訪ねた時の「僕」の心情の変化を捉え、盗み 	C(1)ウ C(1)オ 伝国(1)イ(ウ) 言語活動例 (*)	<p>◇国語への関心・意欲・態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・語り手に着目して作品を読み、自分のものの見方や考え方を広げようとしている。 <p>◇読心能力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・語り手に着目して作品を読み、自分のものの見方や考え方を広げている。 ・場面の展開や人物の描写に注意して、登場人物の心情の変化を捉えている。 <p>◇言語についての知識・理解・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉には、意味による語句のままとまりがあることに気づいている。 	<p>◇国語への関心・意欲・態度</p> <p>【Bの判定基準】 「語り手」(=「私」)について、「作者」「客」「友人」「僕」との違いを捉えることによって、ものの見方や考え方を広げようとしている。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】 語り手がなぜ「僕」の話を語り直したのかということについて、自分のものの見方や考え方を広げようとしている。</p> <p>【Cへの支援】 「客」=「友人」=「僕」であることを捉えさせる。わかりにくい場合には、誰かになりきって話をする場面を引き合いに出させる。</p> <p>◇読心能力</p> <p>【Bの判定基準】 「語り手」(=「私」)について、「作者」「客」「友人」「僕」との違いを捉えることによって、ものの見方や考え方を広げている。</p> <p>人物の描写に注意して、登場人物の心情の変化を捉えている。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】 語り手がなぜ「僕」の話を語り直したのかということについて、自分の経験に照らし合わせて考えたり、調べたことをもとに考えたり、自分のものの見方や考え方を広げている。</p> <p>私が語り直した場面展開であること、人物によって異なる価値観の表れる言葉が用いられていることに注意して、登場人物の心情の変化を捉えている。</p>

				<p>を犯した理由を考える。</p> <p>5 「僕」がチョウをこなごなにした理由を話し合う。</p> <p>6 「考えよう」の課題について話し合いながら、語り手について考える。</p>			<p>【Cへの支援】「客」＝「友人」＝「僕」であることを捉えさせる。第二場面以降、「私」は「客」＝「友人」になり代わり、「僕」として語っているということを理解させる。偏見的な言葉について考えさせる。「僕」の「エーミール」の性格把握は、かなり一方的である。</p> <p>「エーミール」は「僕」というフィルターをとおして見える「エーミール」であって、実際の「エーミール」とは異なること、それゆえ、実際の「エーミール」の言動が心情を知る手がかりになることなどをおさえさせる。</p> <p>◇言語についての知識・理解・技能</p> <p>【Bの判定基準】「とにかく」「せめて」「あいにく」「つまり」には呼応する語があることを理解している。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】「とにかく」「せめて」「あいにく」「つまり」にこめられた気持ちを理解している。</p> <p>【Cへの支援】「とにかく」「せめて」「あいにく」「つまり」という言葉を用いる一文を作成するなどして、どのようなときにこれらの言葉を用いるかを考えさせる。</p>
			7 明暗を表す表現が作品に与える効果について話し合う。	A(1)オ	◇話す・聞く能力	◇話す・聞く能力	<p>【Bの判定基準】相手の発言を注意して聞いて、自分の考えをまとめている。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】話し合いの話題や方向を捉えて的確に話したり、相手の発言を注意して聞いたりして、自分の考えをまとめている。</p> <p>【Cへの支援】相手の発言を受けて、自分はどのように考えるかを発言するように促す。</p>
3月	【話す聞く】 アイデアを出して話し合う	4	<p>●グループでアイデアを出して、話し合う。</p> <p>●話題や方向にそった話し合いをする。</p>	<p>1 日常生活の中から話題を決め、話し合うための準備をする。</p> <p>2 「話すこと」「聞くこと」の既習事項や、話し合いのあり方を確認し、自分の考えをもつ。</p> <p>3 役割を決めて、話題や方向にそった話し合いをする。</p>	A(1)オ 伝国(1)イ(オ) 言語活動例 A(2)イ	<p>◇国語への関心・意欲・態度</p> <p>・日常生活の中の話題について、アイデアを出して話し合おうとしている。</p> <p>◇話す・聞く能力</p> <p>・話題や方向にそって話したり、相手の発言を注意して聞いたりして、自分の考えをまとめている。</p> <p>◇言語についての知識・理解・技能</p> <p>・話題や方向にそった話し合いができるように、指示語や接続語について意識しながら、話し合いを進めている。</p>	<p>◇国語への関心・意欲・態度</p> <p>【Bの判定基準】日常生活の中の話題について、アイデアを出して話し合おうとしている。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】日常生活の中の話題について、相手の反応を踏まえながら話したり、必要に応じて質問したりしている。</p> <p>【Cへの支援】ワークシート1を活用し、友達の考えと自分の考えを比較させる。</p> <p>◇話す・聞く能力</p> <p>【Bの判定基準】話題や方向にそって話したり、相手の発言を注意して聞いたりして、自分の考えをまとめている。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】構成を工夫して話したり、話し手の意図を考えながら聞いたりして、自分の考えとの共通点や相違点を整理している。</p> <p>【Cへの支援】ワークシート2を活用し、教科書P206の「使ってみたい表現例」に言葉をあてはめるように助言することによって、自分の考えをまと</p>

				4 記録した音声や動画などを確認して、改善すべき点などを話し合う。		めさせる。 ◇言語についての知識・理解・技能 【Bの判定基準】 話題や方向にそった話し合いができるように、指示語や接続語について意識しながら、話し合いを進めている。 【Aの具体的な姿の例】 既習の指示語や接続語を的確に用いて話し、話題や方向にそった話し合いを進めている。 【Cへの支援】 教科書P335の「理解や表現に役立つ言葉」を紹介し、指示語や接続語などを活用するように促す。
--	--	--	--	-----------------------------------	--	--

時数合計 116 時間（内、話すこと・聞くこと 16 時間，書くこと 30 時間）

※本表中、「漢字の練習」の時数や学習活動などについては、適宜扱う。

※本表中、「教材目標」欄に（ ）で示してあるものは、教科書では目標として示していないが、想定される目標として設定したものである。

※本表に記載のない教材（「四季のたより」「本の世界へ」「言葉と仕事」「ことばの散歩道」「言葉の自習室」）については、適宜扱う。